

多摩市立図書館本館再構築基本構想概要版

多摩ニュータウンの誕生とともに発展をしてきた多摩市は、いま、大きな改変と再生の時代をむかえています。多摩市民が思い描く、暮らしと郷土環境の将来像への夢は、まちづくりへの期待は、経済性や効率性ばかりではなく、「知の地域創造」ではないかと、この基本構想では、想像がひろがり、図書館システムと中央館の議論がまとめられた。

(第一章) 多摩市民の図書館のいま

現状と課題

1-1. 多摩市のいまと図書館政策

- 全市人口の状況
 - ・人口成長は横ばいに。
 - ・生産年齢人口の減少
 - ・急速な高齢化社会へ。
- 市域の地勢
 - ・多摩ニュータウンが6割、同時的な加齢。
- 公共施設再整備時期の集中
 - 多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム
 - 図書館政策への市民意見によるプログラム見直し
- 図書館運営に関する市議会からの評価→継続的検討

1-4. 多摩市の図書館政策研究の経緯

- 多摩市立中央図書館基礎調査報告書(平成2年)
- 中央図書館建設に向けての構想案 21世紀への図書館計画(平成4年)
- 総合計画の図書館政策方針 第三次(平成8年) 第四次(平成13年)
- 中央図書館に関する図書館協議会からの答申(平成10年)(平成22年)
- 多摩市まちづくり討議会報告書(平成19年)
- 公共施設の見直し方針と行動プログラム(平成25年11月)
- 多摩市読書活動振興計画(平成28年5月)
- 行動プログラム更新(平成28年11月)

1-2. 多摩市の図書館サービスの現状

- 図書館の成長とサービスシステム
 - ・年間68万人貸出利用
 - ・年間総貸出 173万冊
 - ・年間総予約 47万件
 - ・利用登録率 41.3%
 - ・利用者比率 21.2%
- ・市内7館1分室のサービス拠点
- ・学校図書館とのネットワーク
- ・京王線沿線7市のサービス連携
- 市民の利用の状況と特色
 - ・図書館の位置・規模・役割・特色に応じた使い分け。
 - ・「本館」バックヤード機能 滞在型利用、講座
 - ・「駅前拠点館」資料の多さ、通勤通学の利便性、夜間・休日開館
 - ・「地域館」子どもや年配者が歩いていける日常性
- 構築された資料群と表現、管理システムの状況
 - ・中規模の館数が多く、運営費が膨らみ、年間購入資料費が少ない。
 - ・リクエストに応える選書構築の傾向が強い。
 - ・返却された館に留まる資料により各館の開架室を構成するシステム
- 全市図書館の職員は109人 常勤44人(司書23人)体制 唐木田館のみ窓口委託運営

1-3. 多摩市の図書館サービスの課題(現況と課題チャート)

- 現在の「本館」の問題点
 - ・各館への資料分散配置で、本館の専門性が低い。
 - ・床構造/耐荷重の制約で、蔵書収容力が低い。
 - ・閉架書庫(元教室)に調温調湿空調の設備がなく、資料保存環境が良くない。
 - ・駅から坂道で徒歩15分。
 - ・駐車場が狭い。
- 多摩市立図書館全体が抱える課題(読書活動振興計画より)
 - ・暫定活用も含むいくつかの施設の老朽化
 - ・資料費確保と人件費増大
 - ・専門的職員数の先細り
 - ・ICT新技術の活用による新たな情報提供や業務の効率化などへの転換
- 現在の蔵書の特徴と課題
 - ・多摩市の本館では市内蔵書の24.8%しかアクセスできない。(類似都市の浦安市や調布市の中央図書館では80%以上の蔵書にアクセスできると調査で判った。)
- 図書館の課題に対する市民意見の洗い出し
 - ・これまでの報告書への声、市民アンケート、各種パブリックコメント、基本構想で市民グループヒアリングの意見を集め一覧表にした。

現状と課題の把握から基本構想へ

次の基本計画を意識して構想まとめ

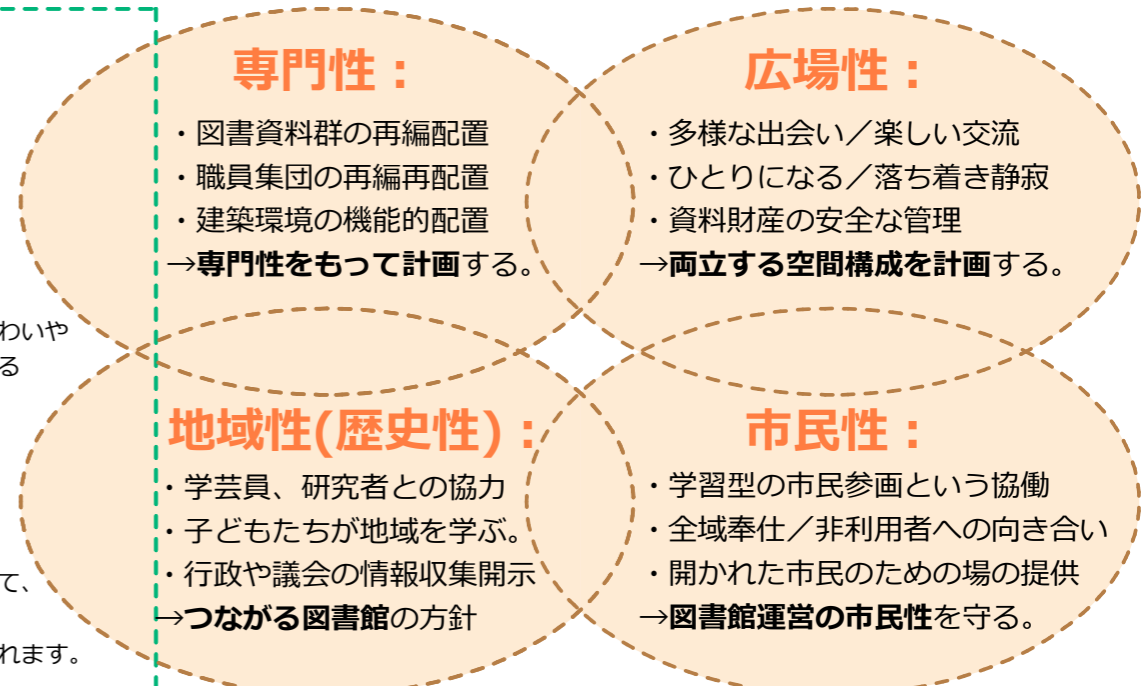
外折

(第四章) 中央図書館づくりの進め方

4-1. 図書館計画に欠かせない4つの視点

基本構想では、中央図書館が都市の賑わいや活気を伴って活動する為には、4つの図書館の本質的特色を視点とすると良いと議論された。

図書館は「ひろば」として、複合的に柔軟に、そして必ず専門的に造られます。



4-2. 資料情報:

中央館の開架室資料群を、どう構造化させ表現するのか。開架室の在り方は、専門化、ワンストップ型、奥行き、ひろがり、など検討テーマです。

- ・コレクションの構築
 - 長期的展望で資料を収集/館別に特色
- ・構造化された開架表現
 - 資料の関連づけ配架/AV漫画テーマ総合化
- ・高度に専門的相談業務
 - レファレンス充実/課題解決/行政や議員支援
- ・安全で拡張可能な資料保存
 - 拡張できる書庫/準開架や公開書庫研究

4-3. 図書館員:

大切な具体化の工程、図書館基本計画では「運営体制づくりと事業コストマネージメント」施策の再編成が、重要な検討テーマです。

- ・市の直営による図書館運営
 - 施策の目標達成への利点と意義の再確認
- ・職員の専門性向上、研修方式
 - 係り縦割りを横断するチーム体制の研究
- ・人件費の縮減と資料費の拡充
 - 業務自体の見直し、成長できる業務環境
- ・仕事分担、業務の合理的見直し
 - 人的資源再配分、
- ・ICT活用・開館日の研究再編
 - 総経費の有効的配分、人件費の縮減研究

4-4. 施設環境:

図書館施設計画での4つの目標は、次の基本計画の重要な検討テーマです。

- ・機能的であること
 - 緻密な方針を準備/ふさわしい設計者選定
- ・快適であること
 - 利用者の快適/本の居心地/地球環境
- ・魅力的であること
 - また来たい/広場共用部/集会和展示室
- ・経済的であること
 - 可変性・拡張性/少ない職員で運用可能
 - トータルなライフサイクルコストの低減

基本構想策定委員会経緯

基本構想策定委員会は、毎回多数市民の傍聴をいただき、6/25、8/6、8/29、9/24、10/29、11/20、1/7、の7回開催された。市内の全図書館を視察し、事務局とコンサル作成のグループヒアリング記録や現況と課題調査などを基礎資料として協議した。

市民フォーラム

12月3日午後6:30から、永山公民館ベルブホールで「多摩市立図書館本館再構築市民フォーラム」が開かれた。市民等の参加は102人。柳田邦男委員長の基調講演、事務局の中島図書館長から基本構想原案の説明をした。参加された市民のなかで、7名の方から質疑と意見があった。

パブリックコメント

基本構想原案は平成28年12月3日から12月17日に市ホームページや各図書館などで公開された。実施結果では41件、161項目の市民意見が寄せられ、第7回策定委員会で内容が報告され、構想原案に反映修正が協議された。公募意見の記録については、本基本構想資料編に、まとめて記録をする。

多摩市立図書館本館再構築基本構想概要版

平成29年1月 提言 基本構想策定委員会
平成29年3月 多摩市教育委員会委員会 / 事務局 多摩市立図書館

○ 多摩市の暮らしと環境が魅力的に生まれ変わるときには、市の中心市街地多摩センターがいきいきと輝いて欲しい。「知の地域創造センター」というテーマの街が夢想された時、新しく構想される多摩市立図書館の中央図書館は、このまちづくりに加わり、大きな役割を担うにちがいない。

「知の地域創造」のビジョン（市民フォーラムの講演より）

経済活動による地方再生ではなく「知の地域創造」をめざす社会目標を仮想。激動の時代に将来を見通し、若い世代に引き継ぐ図書館構想であろうと提言。

（序章）「知の地域創造」のために

序章は 知の地域創造センターを仮想した、中央公園につながる中央図書館の活動と環境の将来像をイメージしています。

○ このたび議論され構想された図書館中央図書館は、市民の誰にも使いやすく、誰をも迎え入れる広場性をそなえた、これまで、市民のみなさんが育ててきた、多摩市立図書館の進化した将来像であると想像されます。その高度な専門性をそなえた図書館サービスは、来館者に向かうと同時に、身近な地域館を支え市民に届きます。

（第二章）多摩市民をめざす図書館

2-1. 「知の地域創造」のための図書館（基本方針と5つの運営方針）

- ・多摩市自治基本条例にもとづいた基本姿勢（行政と市民の情報共有が市民参画・協働の原則）
- ・第五次多摩市総合計画基本構想の位置づけ（将来の都市像、まちづくりの基本理念、）
- ・多摩市立図書館の基本方針・運営方針（市民の「知る」を支援する／5つの運営方針）

2-3. 再生まちづくりの担い手となる図書館

- 暮らしに役立つ魅力的な図書館は、ニュータウン再生、故郷への帰属感など、地域コミュニティを育てます。
- ①多摩市の魅力向上②出会いの結節点
 - ③多世代交流の広場④地域コミュニティの相談者
 - ⑤ふるさと多摩市の記憶装置／情報発信基地

2-2. 図書館システムとしての多摩市立図書館

- ・多摩市立図書館とは、全市をおおう図書館サービスのネットワークの総体である。

2-4. あたらしい多摩市立図書館全体への提言

- ・全市図書館運営に、資料・職員・施設、三要素のマネジメントが重要
- ・図書館協議会の役割が重要
- ・市民グループとの協働の試みも期待される。

中央図書館の使命：3-1. 中央図書館整備の「使命」そしてあらたに

3つの使命

- ①多摩市の図書館システムの中核
七つの地域館と結び合い、その活動を支える。
- ②多摩市の文化・情報・教養活動の基地
中央公園やパルテノン多摩ほかとつながる。
- ③市民コミュニケーションの向上
学校との連携／生涯学習の拠点

あらたな都市の広場としての使命

- ①子どもたちにとっての「喜びの広場」
- ②ティーンズにとっての「たまり場」
- ③おとなにとっての「知の広場」

中央図書館のサービス：3-2. 基本的図書館サービスの深化と高度に専門化された新しいサービス

4つの担うべきサービス + 時代が求める新しいサービス

- ①専門性が深化し充実した基本的図書館サービス
資料構築とレファレンスなど、これまでの専門性を高める。
- ②全域奉仕・地域館支援・アウトリーチサービス
未登録6割、非利用8割、の市民への誘い／つながりを求める。
- ③全市図書館システムのセンター機能
資料、職員、の機能的編成と管理／全市サービスに専門的支援
- ④多様な市民と活動を支えるサービスと場の提供
集会、展示、交流、の催事企画や場の提供／多文化サービス
- ⑤時代が求める高度で専門化された図書館サービス

「自己判断自己責任」型社会に、リスクと隣り合わせで暮らす市民利用者に、多様で総合的な課題解決型支援

中央図書館 ネットワークの中核管理機能 サービス支援センター機能

駅前拠点図書館
通勤・通学・買い物にも便利な場所にあり、夜間休日開館や自動貸出などに特色のあるサービス

地域図書館
子どもやお年寄りの日常生活圏に対応して地域の暮らしに沿った特色を持つサービス

学校図書館
公共図書館の協力を得て読書環境充実と教科支援。年間資料費の充実が課題。ESD:生涯に学ぶ姿勢を身につけてもらうサービス

ネットワーク拠点 アウトリーチサービス網
幼稚園保育園、高齢者施設、病院入院施設、来館し難い方々団体へのサービス

行政資料室
中央図書館にも充実の地域資料行政資料を構築

・多摩市立図書館ネットワークで、それぞれの図書館は地域サービスの分担、サービス領域の役割分担をする。

（第三章）多摩市民を支える中央図書館

多摩中央公園の南隣に中央図書館の適地がある

- ①低層構成の施設に必要な十分な広さ
- ②中心市街地に近い利便な環境（移動弱者にはミニバス循環を）
- ③良好な周辺用途/環境
- ④駐車場付帯余地

3-3. 中心地区につながる開かれた中央図書館

- 中央図書館の敷地に求められること
 - ・十分な広さの開架室を可能とする敷地
 - ・図書館にふさわしい周辺や道行きの環境
 - ・アクセスしやすさと十分な駐車場
- 中央図書館候補敷地と周辺のつながりのイメージ
 - ・約6,000㎡フラットな切り土造成で安定した土地
 - ・開架2層が可能で理想的
 - ・駅前賑わいゾーンに対比される落ち着いたアカデミックなエリア
- 中央図書館候補敷地へのアクセスしやすさとイメージ
 - ・駅からの徒歩のアプローチ → 昇降補助設備の整備
 - ・周辺住宅地からの徒歩、自転車でのアクセス
 - ・移動弱者を支える車系アプローチ → 駐車場／循環バス

3-4. 市民協働で「もの」と「こと」のデザインを

中央図書館とまちづくりを、市民と図書館と一緒に考えてゆこう。施設づくりについても基本計画から情報開示と学習型市民参画で。資料、職員、施設の3要素に「もの/環境」と「こと/活動」がある。どんな資料世界、施設環境、図書館サービス、を想像するか。基本計画／基本設計の検討のテーマとなる。